

こうして、
わたしたちはローマに着いた。
クラス⑤：ローマでの拘留



パウロの拘留された場所とローマへの旅

Places of Paul's custody and his voyage to Rome

ローマ

フィリッピ



カイサリア
エルサレム

Copyright 2003 by Central Christian Church.

Legend

- Cities where Paul was held in custody
- Main cities where the gospel spread

ようやくパウロはローマに到着した。

使徒28: 16

わたしたちがローマに入ったとき、パウロは番兵を一人つけられたが、自分だけで住むことを許された。

1. 更に「軽い」拘留

- ローマではパウロは以前と比べて(フィリピ、エルサレム、カイサリア)最も「軽い」拘留になった。つまりローマでは拘留されながらも最も自由が与えられた。
- このような形で拘留されることは裕福な人か社会的地位が高い人にしかかなわないことであった。
- クラウディウス・リシアからの手紙、フェリクス、フェストゥスや百人隊長ユリウスからの肯定的な報告の影響があった。
- パウロの信仰を光らせるために神様が大きな嵐を送ったのかもしれない。自分の自由が奪われたり、自分の力で物事を支配できない中でも、信仰があれば神様が私たちのために働いてくださる。

使徒 28: 30

パウロは、自費で借りた家に丸二年間住んで、
訪問する者はだれかれとなく歓迎し、

使徒28: 23

そこで、ユダヤ人たちは日を決めて、大勢でパウロの宿舎にやって来た。パウロは、朝から晩まで説明を続けた。神の国について力強く証しし、モーセの律法や預言者の書を引用して、イエスについて説得しようとしたのである。

ローマで拘留された二年間に多くの聖書に残されている獄中の手紙を書いた可能性がある。

2. 続けて福音を告げる責任を果たし続けた。

- パウロが上訴してから裁判が成立するまで2年間かかった。

使徒28: 23

そこで、ユダヤ人たちは日を決めて、大勢でパウロの宿舎にやって来た。パウロは、朝から晩まで説明を続けた。神の国について力強く証しし、モーセの律法や預言者の書を引用して、イエスについて説得しようとしたのである。

- どこにいても誰と会っていても必ず神の国について証し続けた。

四年間に渡っての拘留中パウロは数多くの人に強い霊的な影響を与えた。

- 1) フィリピの看守と彼の家族
- 2) 鎖で縛られていた時にエルサレムで説教した群衆
- 3) カイサリアで会った総督フェリクス、総督フェストゥス、他のローマの有力者、怒り狂っているユダヤ人とアグリッパ王
- 4) 船に同乗していた276人とマルタ島で出会った多くの人々

5) パウロに対して深い信頼をおいた百人隊長ユリウス
彼が回心したかどうかは不明

6) ユダヤ人の指導者を含め、彼のローマで借りた家に
訪れた数多くの人々

使徒28:24

ある者はパウロの言うことを受け入れた

もうひとつの興味深いグループ

7) フィリピ1:13でパウロがこのように語った。

つまり、わたしが監禁されているのはキリストのためであると、兵営全体、その他のすべての人々に知れ渡り、

拘留中のパウロを兵隊が順番で監視していた。パウロに順番で兵隊がつく度にパウロの説教を聞くようになり、いずれ兵営全体に広がった！

今の生活においてどのような制限がありますか？

人生4年かけて、何が成し遂げられるでしょう？

信仰を分かち合う時間が無い程忙しければ、単純に忙しすぎます。

ある人は一つのことだけにしか集中することしかできません。仕事をしている時、仕事のことしか考えられません。その結果、多くの福音を伝える機会を見逃しているのではないのでしょうか？

3. 獄中書簡

パウロは獄中で多くの手紙を書いた。しかし、使徒言行録ではパウロが書いた手紙について記録されていない。

獄中書簡の4通の手紙： エフェソ、フィリピ、コロサイとフィレモンはローマで拘留された時に書かれたように思われる。

5つ目の獄中書簡、第二テモテもローマで書かれている。この手紙は61－62ADの間に書かれたか、二回目の拘留、65－67ADの間に書かれている。

1) エフェソの手紙： エフェソ6: 19-20

また、わたしが適切な言葉を用いて話し、福音の神秘を大胆に示すことができるように、わたしのためにも祈ってください。

わたしはこの福音の使者として鎖につながれていますが、それでも、語るべきことは大胆に話せるように、祈ってください。

パウロは誰に対して福音の神秘を
話す予定でしたか？

2) フィリピ： フィリピ¹: 12-14

兄弟たち、わたしの身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったと知ってほしい。つまり、わたしが監禁されているのはキリストのためであると、兵営全体、その他のすべての人々に知れ渡り、主に結ばれた兄弟たちの中で多くの者が、わたしの捕らわれているのを見て確信を得、恐れることなくますます勇敢に、御言葉を語るようになったのです。

フィリピ⁴: 22

すべての聖なる者たちから、特に皇帝の家の人たちからよろしくとのことです。

パウロが拘留されたことによって弟子たちの大胆さはどのように影響されましたか？

兵營の人達はどのようにして福音を聞くことになりましたか？

兵士の中でクリスチャンになった人はいましたか？

3) コロサイ: コロサイ4: 3-4

同時にわたしたちのためにも祈ってください。
神が御言葉のために門を開いてくださり、わたしたちがキリストの秘められた計画を語る
ことができるように。このために、わたしは牢
につながられています。

わたしがしかるべく語って、この計画を明らかに
できるように祈ってください。

パウロは誰に対して福音を伝えたかったか？

- ①皇室の兵隊
- ②皇帝(ネロ)の家族
- ③自分の裁判に関わる人たち

パウロが先ほど読んだコロサイ4章で書かれた「御言葉のために門が開かれる」とは何を意味していますか？

常に塩気のある話を人とすること。

つまり、インパクトのある話をすること。

どんな質問に対しても対応できる準備が必要である。

4) フィレモン: フィレモン 1:23

キリスト・イエスのゆえにわたしと共に捕らわれている、エパfrasがよろしくと言っています。

5) テモテ： 第二テモ手4:16-17

わたしの最初の弁明のときには、だれも助け
てくれず、皆わたしを見捨てました。彼らにその
責めが負わされませんように。

しかし、わたしを通して福音があまねく宣べ伝
えられ、すべての民族がそれを聞くようになる
ために、主はわたしのそばにいて、力づけてく
ださいました。そして、わたしは獅子の口から
救われました。

第二 テモテ4: 6

わたし自身は、既にいけにえとして献げられています。世を去る時が近づきました。

福音を宣べ伝えることは格闘のようである。
時々ダウンを取られることもあるが、負けはしない。

福音を宣べ伝えることは競争のようである。疲れ果てる時もある。

何によって今疲れ果てていますか？

自分の富を築くために疲れ果てていますか？

最後に

繰り返して話すとパウロはローマの市民権を保持していることを明らかにしたのは福音を宣べ伝えるために最も良いタイミングであった。フィリピでは、マケドニアに早急に進むためにローマ市民権を持っていることを最後まで明かさなかった。エルサレムでもユダヤ人の群衆に語る機会を持つために最後まで明かさなかった。しかし、カイサリアではタイミングを丁寧に選んで、上訴し、ローマに行って福音を宣べ伝えられるようにローマ市民権を利用した。

つまり、ローマの市民権について語った時、毎回必ず、福音を広げるためには何が一番良いかと考えた上で選択をした。

最後に(続き)

ローマへ向かって行く道中にパウロは世の光、地の塩となった。

ローマに到着して、福音を伝えることに有利な機会を活かして、自分を訪問する人に対しても、見張りをしている兵隊に対しても福音を宣べ伝えた。

パウロと一世紀の弟子たちと手を組んで、同じ戦いを最後まで戦い抜き、信仰を守り続けましょう！

終わり

